

多様な視点を持つことの大切さ」

佐々木真紀 視能訓練士

介護民俗学という分野について、また聞き書きについて知識を得ることができましたことに感謝いたします。ご講義のなかにはありました「生産性」と「指示」という言葉について感じたことをまとめます。

生産性はインプットとアウトプットの比ということになります。生産性向上推進体制加算と ICT 化による業務の効率化により利用者と向き合う時間を増やし、ケアの質を高めるという理論で介護報酬の改定が行われたとのこと。事務処理に費やす時間が増えるばかりとのことで、それではケアの質が高まるというアウトプットにつながるの難しいだろうと感じました。

例えば、先生がなさっている聞き書きを形にした「思い出の記」「人生すごろく」「すまいるかるた」などはまさに成果物です。利用者、家族、スタッフの三者にとってよい結果をもたらすものです。なかなか難しいとは思いますが、体験や過ごした時間が関係者にどのくらいの満足度をもたらしたかという指標でケアの質を測ることが、真の意味で生産性の向上につながっていくのではないかと思います。

次に「指示」という言葉についてです。私は医療の現場におり、違和感なく当然のように使っていました。

私の資格である視能訓練士法の条文には医師の指示の下に業務を行うとあります。他のコメディカルの法律にも「医師の指示の下」という文言が入っています。現在はチーム医療といいつつ、現場では医師→スタッフ→患者という縦のラインができがちなことは否めないと思います。一方で、「指示が入らない」と申し送りがある、またはカルテに書いてあるとその一言でどのような対応をすべきか各スタッフが共有できます。ある意味、患者さんへの対応の工夫が必要なことがすぐ把握できるシンプルな言い回しであるとも言えます。

ただ、ご指摘のように非常に上から目線な言葉でもあります。代わりに何かよい言葉がないものかと考えさせられました。

最後に先生が現場だけではなく別の視点を持つことが大事だと述べられておりましたが、まったく同感で、現在修士課程で学んでおります。今後も多様な視点を持てるようつとめて参りたいと思います。この度は貴重なご講義を本当にありがとうございました。

先生の今後ますますのご活躍をお祈りいたしております。